

マヘダノリトヨ 前田矩豊 加賀藩臣。通稱式部。正徳三年父敷馬孝效の遺知二千五百石を襲ぎ、御算用場奉行・御近習御用を經、寶曆二年五百石加増、六年公事場奉行に任じ、明和元年御免、八年五月二十日歿した。

マヘダノリマサ 前田矩正 加賀藩臣。通稱敷馬・式部。文政元年父式部孝始致仕の後三千石を領し、小松御城番・寺社奉行・兼公事場奉行を経て、天保十一年六月若年寄に進んだ。

マヘダハルナガ 前田治備 加賀藩主第十一代。前田吉徳の十男、母は壽清院。延享二年正月四日金澤に生まる。幼名時次郎。三年四月廿八日越中古國府勝興寺住職に定まり、六月六日名を尊丸と改め、寶曆六年閏十一月二日同寺に移り、十一年三月得度して剛眞と稱したが、明和五年十二月十八日兄重教に嗣子がなかつた爲還俗を命ぜられ、六年二月朔日金谷御殿に移り時次郎に復し、同月六日諱を利有と稱した。次いで八年二月江戸に赴き、四月廿三日重教致仕して家督を相續し、六月廿五日正四位下左近衛權少將兼加賀守に叙任し、將軍徳川家治の偏諱を賜うて治備と改めた。安永元年十二月十八日左近衛權中將に轉じ、寛政四年十二月十五日參議に任じ、中將故の如く、享和二年三月九日致任、同月十一日肥前守と稱し、文化七年正月七日金澤に卒し、九日發喪した。享年六十六。法號太梁院俊山徳英大居士、野田山に葬る。後大正六年十一月十七日從三位を追贈せられた。

マヘダヒテツグ 前田秀繼 前田利春の六男、利家の弟。通稱右近。利家に屬し、越前府中に於いて千石を受け、天正十一年四萬石

を領して加賀津幡城に居たが、十三年越中今石動城に移り、又木船城に轉じて、十一月廿九日大地震の爲に壓死した。法號瑞光院密庵永傳居士。彌波郡矢波村高德寺に葬り、高德寺は後に永傳寺と改めた。その子に利秀があつた。

マヘダヘイザエモン 前田平左衛門 加賀藩臣。父は三郎四郎。平左衛門初め毛利秀就、松平忠直に臣事し、寛永十五年前田利常に仕へて三百石を領し、萬治二年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

マヘダマサトラ 前田正虎 利太の子。通稱安太夫。初め加賀藩に仕へて二千石を受けた。正虎光悅様を學んで書を能くし、前田家之記一名前田安太夫筆記を著して藩の故事を傳へた。後處士を以て七尾に終り、嗣がなかつた。

マヘダミチナリ 前田道濟 加賀藩臣。通稱織江。寛政三年父左膳道河の致仕後六千石(内千石與力知)を領し、六年小松御城番、八年前田齊廣附に任じ、九年千石を増し、若年寄に任じ、天保元年八月致仕して料千石を受け、十月十三日歿した。

マヘダミツタカ 前田光高 加賀藩主第四代。前田利常の嫡男、母は天徳院。元和元年十一月二十日金澤に生まる。幼名犬千代。初諱利高。寛永六年四月廿三日正四位下左近衛權少將兼筑前守に叙任せられ、將軍徳川家光の偏諱を賜うて光高と改めた。十六年六月二十日利常致仕して家を襲ぎ、同年閏十一月初めて入部、正保二年四月五日暴かに江戸邸で歿した。享年三十一。法號陽慶院將慶天良大居士、金澤天徳院に葬る。光高學を好み、自

論記・一本種・陽慶公詠歌百首・徒然百首等の著がある。

マヘダムネトキ 前田宗辰 加賀藩主第七代。前田吉徳の嫡男、母は壽珠院。享保十年四月廿五日金澤に生まる。幼名勝丸。元文元年十月初めて出府、二年四月六日犬千代と稱し、同月七日又左衛門利雄と改め、六月廿八日正四位下左近衛權少將兼佐渡守に叙任、將軍徳川吉宗の偏諱を賜うて宗辰と改めた。次いで延享二年七月廿五日家督相續を命ぜられ、八月四日加賀守と改稱し、十月十八日左近衛權中將に陞り、三年十二月八日江戸に卒し、十二日發喪した。享年廿二。法號大應院梅關雪峰大居士、野田山に葬る。宗辰字は伯拱、梅塲 皓然齋・閑章堂と號した。

マヘダヤスカツ 前田安勝 前田利春の三子。利家の兄。通稱五郎兵衛。利家に屬して越前府中に千石を受け、後七尾城代となつて一萬三千七百石を領し、文祿三年九月廿三日歿した。法號天翁道清居士、七尾の郊外長齡寺に葬る。その子に利好があり、一女は青木善四郎の室となり、一女は伯父利久に養はれて、養子利太と婚した。

マヘダヤスツグ 前田安繼 ↓マヘダトシヨシ 前田利好。

マヘダヨシツグ 前田長繼 ↓マヘダトシヨシ 前田利好。

マヘダヨシノリ 前田吉徳 加賀藩主第六代。前田綱紀の四男、母は預玄院。元祿三年八月八日江戸に生まる。幼名勝次郎。十五年二月十四日勝丸と改め、同月十五日犬千代と稱し、同月廿一日又左衛門利興といふたが、六月九日正四位下左近衛權少將兼若狹守に叙任

した際、將軍徳川綱吉の偏諱を賜うて吉治と改めた。次いで享保八年五月九日封を襲ぎ、六月十五日加賀守と稱し、八月十八日左近衛權中將に進み、九年七月廿二日初めて入部した。元文五年十二月朔日參議に任じ、中將故の如く、同月十八日諱を吉徳と改め、延享二年六月十二日金澤に卒した。享年五十六。法號護國院佛鑑法性大居士、野田山に葬つた。因に言ふ。吉徳が元祿十五年諱を利興と稱したことに就いては稍疑がある。何となればこの時富山侯も亦長門守利興であつたからであり、隨うて參議公年表に利興としてあるのが正しいやうに思はれぬでもない。併し政隣記に『御名乘利興公と御稱之旨、御親簡(綱紀)被遊被進之。御名乘兼而林大學頭殿被考之。反切隣字。』とあるによつて、利興といふことの誤ならざるを知るべく、更に護國公年譜には『先是富山侯長門守權稱利興。宗國之家君御同名なれば即時可被諱避之所、聊御沙汰無之可謂失禮也。當時有諷之聲深非議之。嗣君無間今之御名(吉治)に改らるゝ故に彌不及其儀歎。』との奇論さへ生じてゐる。要するに林國岡の不念から、綱紀も無意識にその誤を重ねたものであるらしい。

マヘダヨシハル 前田吉治 ↓マヘダヨシノリ 前田吉徳。

マヘダヨシヤス 前田慶馨 加賀藩主第十四代。前田齊泰の嫡男、母は景徳院。天保元年五月四日江戸に生まる。幼名犬千代。十二年十二月朔日又左衛門利住と改め、十三年二月廿二日正四位下左近衛權少將兼筑前守に叙任し、將軍徳川家慶の偏諱を賜うて慶寧と改めた。嘉永五年十二月十六日左近衛權中將に